

▶ S-KYT研修を受講して ◀

北海道旭川市消防団

1. はじめに

北海道のほぼ中央、大雪山連峰に抱かれるように広がる旭川市は、人口が34万人、面積747.6km²で、石狩川をはじめとする多くの河川が市内を流れる豊かな自然に恵まれたまちです。

また、冷涼な気候や交通の要衝といった地理的条件を活かした良質の米やそばなどで知られる農業をはじめ、食料品、家具、木工などの製造業や卸・小売業などの多様な産業を有し、教育や医療など様々な都市機能も整備、集積された北海道第二の拠点都市であります。



近年は「旭山動物園」が脚光を浴びるなか、国内はもとより海外からも多くの観光客が訪れる観光都市としても注目されています。



気候は、曲典型的な内陸性気候で平成28年中の最高気温が33.6℃、最低気温が氷点下22.5℃で年間降雪量が584cmと、年間寒暖差が大きく四季が明瞭なのが特徴です。



2. 消防団の概要

旭川市消防団は、平成30年2月現在、団本部と34分団(女性分団を含む。)、団員数702名で構成されており、水槽付き消防ポンプ車4台、消防ポンプ車4台及び小型動力ポンプ積載車27台を配置しています。

特に、昨今は、災害に備えての訓練は勿論のほか、各種防火クラブや自主防災組織等と協力連携した防火・防災意識啓発への積極的な取組に加え、高齢者宅へのあんしん訪問や認知症徘徊者の早期発見ネットワークへの参加など、地域の見守役としても活躍しており、その活動全般が安心安全なまちづくりに寄与しています。

3. S-KYT研修の開催経緯

本市消防団では年間業務執行計画の中で、入団3年以内の新入団員を対象にした「基礎教育研修」、幹部団員を対象にした各種研修訓練や消防本部各署所との合同訓練等を計画し実施していますが、今年度は年2回を計画している「現任教養訓練」を消防団員の安全管理に関する教養訓練に位置づけていたことから、消防団員の危険予知能力を高め、さらなるスキルアップに繋げていこうということで、消防団員等公務災害補償等共済基金から講師5名を派遣していただきS-KYT研修を実施しました。

4. S-KYT研修の様子

平成29年11月18日(土)、旭川市民活動交流センター CoCoDe(ココデ)にて、消防団長以下、196名の消防団員が、午前・午後の2部に分かれて2時間コースを実施しました。

研修では、冒頭、講師の方から「S-KYT研修の概念と狙い」についての講義を受け、続いての実技1では、指差し呼称「椅子押し込み ヨ

シ!」の慣れない行為に、初めはぎこちなさと照れもありましたが、指差し唱和そしてタッチ・アンド・コールと進むにつれ、連帯感を持った中で自ら進んで実践している様子へと変化していきました。

また、実技2のイラストシートを使っての4ラウンド法を用いた危険予知訓練では、災害現場などに潜む危険因子を予知し、未然に対処する“先取りの原則”の重要性を認識するとともに、ブレイン・ストーミング法による討論やこのような討論時におけるリーダーの重要性等、普段の会議と違った面も経験できたことは非常に大きな成果であったと思われます。

5. S-KYT研修を終えて

後日、各分団の分団長を集めた幹部会議が開催された際、消防団長から訓示の中で、「S-KYT研修で学んだ、指差し呼称、指差し唱和及びタッ

チ・アンド・コールは是非、普段の活動にも実践していただくとともに、小さな事故の繰り返しが大きな事故に繋がるという認識を持って、普段から“先取りの原則”に基づいた行動を心がけて欲しい」とリーダー的立場にある分団長から各団員に対して指導するよう求めていました。

また、今回の研修を終えて、多くの消防団員から「2時間コースでは短すぎるためやはり4時間コースを実施すべきでは」との意見が出ていたほか、「少しでも多くの団員に実践させるためには、これで終わることなく継続して実施すべき」との声が上がっていることから、次年度以降の実施についても検討していきたいと考えております。

結びになりましたが、このたびの研修開催にご協力いただきました講師の皆様、消防基金の方々に心より感謝申し上げます。

